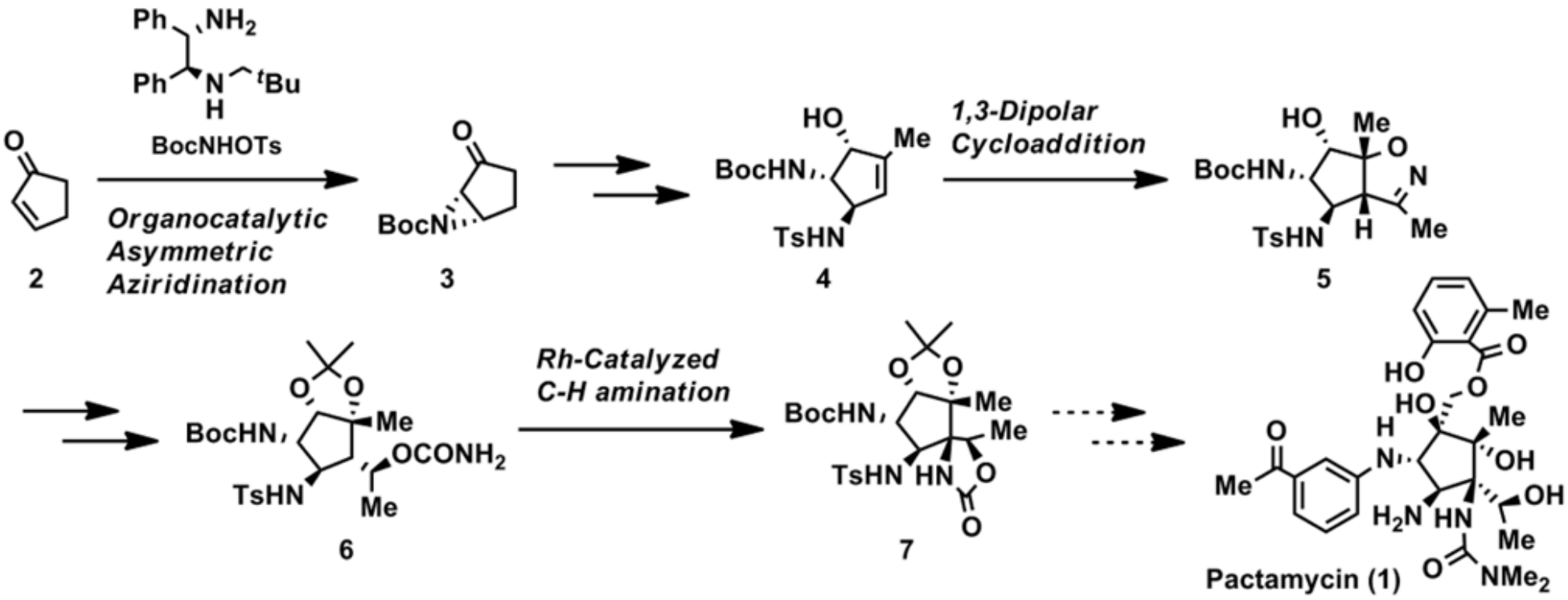
28AA-am06S

Pactamycin の全合成研究

◯林　みなみ[1], 根本　哲宏[1], 濱田　康正[1]([1]千葉大院薬)

【目的】Pactamycin (**1**)は 1961 年に *Streptmyces pactum var. pactum* の培養液中から単離された抗腫瘍活性物質である。我々は当研究室で開発された触媒的不斉アジリジン化反応[1)]を起点とし、**1** における不斉中心の構築法を確立することを目的として実験を行った。

【方法・結果】2-cyclopenten-1-one (**2**)を基質とし、キラルジアミン触媒を用いた不斉アジリジン化反応を行って **3** を得た。数工程を経て **3** を **4** に変換後、立体選択的 1,3-双極子付加反応によって **5** を得、さらに Rh 触媒を用いた C-H アミノ化反応によって **7** を得ることに成功した。現在、**1** に向けた更なる変換を検討中である。



1)　Menjo, Y.; Hamajima, A.; Sasaki, N.; Hamada, Y. *Org. Lett.* **2011**, *13*, 5744-5747.